

古文・漢文基礎事項確認プリント

二年 組 番 氏名 ()

一、次の文章を読んで次の問に答えよ。

丹波に出雲といふ所あり。大社を移して、めでたく造れり。しだのなにがしとかや領る所なれば、秋のころ、聖海上人、そのほかも、人あまた誘ひて、「いざ給へ、出雲拝みに。かいもちひ召させん。」とて、具しもて行きたるに、おのおの押みて、ゆゆしく信おこしたり。

御前なる獅子、狛犬、背きて、後ろさまに立ちたりければ、上人いみじく感じて、「あなめでたや。この獅子の立ちやう、いとめづらし。深きゆゑあらん。」と涙ぐみて、「いかに殿ばら、殊勝のことは御覧じとがめずや。むげなり。」と言へば、おのおのあやしみて、「まことに他に異なりけり。都のつとに語らん。」など言ふに、上人なほゆかしがりて、おとなしくもの知りぬべき顔したる神官を呼びて、「この御社の獅子の立てられやう、定めて習ひあることに侍らん。ちと承らばや。」と言はれければ、「そのことに候ふ。さがなき童部どものつかまつりける、奇怪に候ふことなり。」とて、さし寄りて、すゑ直していにければ、上人の感涙いたづらになりけり。

問一 傍線部 a~j の語の活用の種類と活用形を答えよ。

- | | | | |
|--------------|----------|---------------|----------|
| a 活用(ラ行変格活用) | (活用形)終止形 | b 活用 | (活用形)連用形 |
| c 活用(ハ行四段活用) | (活用形)連用形 | d 活用(サ行変格活用) | (活用形)連用形 |
| e 活用(マ行四段活用) | (活用形)連用形 | f 活用(タ行四段活用) | (活用形)連用形 |
| g 活用(シク活用) | (活用形)終止形 | h 活用(ナリ活用) | (活用形)連用形 |
| i 活用(ハ行四段活用) | (活用形)未然形 | j 活用(ワ行下二段活用) | (活用形)連用形 |

問二 傍線部ア・イを現代語訳せよ。

ア(ぼたもちをごちそうしましょう。)

イ(上人が流した感涙もむだになってしまった。)

二、次の漢文を書き下し文と現代語訳文に直せ。

① 転^{ジテ}禍^{ヒサ}為^ス福^ト。

書(禍^ヒを転^{ジテ}じて福^トと為^スす。)

現(身にふりかかった不幸を活用し、幸福となるようにする。)

② 尽^{クシテ}人事^ニ待^ツ天命^ヲ。

書(人事^ニを尽^{クシテ}くして天命^ヲを待^ツつ。)

現(出来るかぎりのことをした上で、結果は運命に任せる。)

③ 用^{キル}人^ヲ如^ク器^ノ、各取^ル所^ヲ長^{ズル}。

書(人を用^{キル}ゐるは器^ノのごとく、各長^{ズル}する所を取^ルる。)

現(人を登用する時は使い道に合わせて道具^ヲを利用する
ように、それぞれ人のすぐれているところを利用する。)

④ 百聞^ハ不^レ如^カ一見^ニ。

書(百聞^ハは一見^ニにしかず。)

現(百のことを人から聞くのは、自分の目で一度見ることに
及^バない。)

⑤ 忠言^ハ逆^{ラドセ}於^ニ耳^ニ、而^ニ利^{アリ}於^ニ行^ニ。

書(や^ニ言^ハは耳^ニに逆^{ラド}らへども、行^ハひに利^{アリ}あり。)

現(忠告は耳障りである素直に聞けないが、実際の行いの上で
利点がある。)

⑥ 母^{カレ}下^ニ以^{ツツテ}己^ノ之長^ヲ、而^ニ形^ス中^ニ人^ノ之短^ヲ。

書(己の長を以^{ツツテ}つてして人の短を形^スすこと母^{カレ}れ

現(自分の長所を誇示して、他人の短所をは^ッざり示す
ようなことをするな。)

⑦ 過^{チテ}而^ル不^レ改^メ、是^ヲ謂^フ過^{チト}矣。

書(過^{チテ}ちて改^メめざる、是^ヲを過^{チト}ちと謂^フふ。)

現(過^{チテ}ちを犯して改^メめないことを過^{チト}ちといふ。)